

つながる力

《No.10》



2017年(平成29年)7月14日 金曜日

沖 縄

本土から 辺野古に 土砂を持ち込ませない!



「辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会」の阿部悦子共同代表らは13日、県庁記者クラブで会見し、名護市辺野古の新基地建設に伴う埋め立て土砂の搬出候補になつて6県(福岡、長崎、熊本、鹿児島、山口、香川)に対し、沖縄県との連携を働き掛ける方針を発表した。沖縄県が「県外土砂搬出反対協議会」のメンバーら13日、県庁記者クラブ

土砂規制強化要請へ 辺野古反対協 搬出元6県に

「砂搬入規制条例」に基づき、採石地で特定外来生物の有無を調査する場合などに、各県職員が現地への派遣など積極的な協力を求める。既に4県で各地の市民団体が要請活動を始め、長崎からは「沖縄県に要請があれば協力することになる」と、各県に協力を求めるのは、沖縄県が採石地に立ち入って外来生物の有無を調査するケース、外来生物の発見後に防除対策が確実になされたか確認する時などを想定。各県との広域連携の仕組みについても可能性を探り、チェック体制を強化したいとしている。

阿部共同代表は、採石によって私たちの土里の山は崩され、海は汚れる。さらに辺野古の海を埋めれば、国の生物多様性国家戦略に真っ向から反すと指摘した。

同協議会は、埋め立て土砂・資材の大量搬出が見込まれる西日本の団体を中心に構成。同協議会の湯浅一郎顧問は「6県とも生物多様性地域戦略を策定している。それを推進する立場で、沖縄県の条例に協力すべきだ」と指摘。搬出が見込まれる採石地の約7割が環境省の指定する「生物多様性重要海域に面する」とし、新基地建設は辺野古に加え、搬出地の環境も破壊する」と訴えた。

2017.7.14 沖縄タイムス

5頁、湯浅一郎顧問の報告をご覧ください。

辺野古埋立て・新基地建設を止めよう!
本土からの辺野古土砂採取計画撤回を求める署名
第三次提出にむけ
さらに署名を進めます!ご協力下さい!

一目次

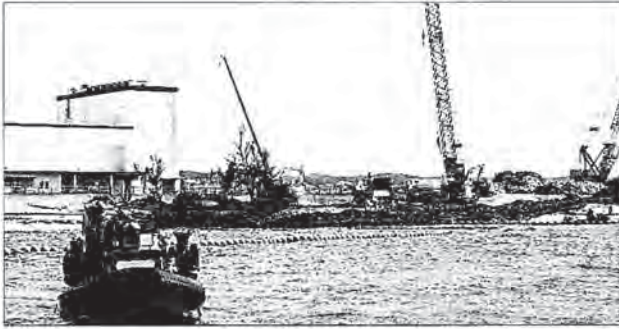
- 《沖縄》 「八方塞がり」に陥った沖縄防衛局/北上田毅・・・2ページ
- 《沖縄》 今回の米軍ヘリ墜落炎上事故で思うこと/田丸正幸・・・3ページ
- 沖縄県土砂条例を活かすために 自治体の広域連携を/湯浅一郎・・・5ページ
- 9月の沖縄訪問記/阿部悦子・・・6ページ
- 辺野古埋立て用土砂採取問題 各県で要請/香川・熊本・山口・鹿児島・・・8ページ
- 《三重》 辺野古の海底に大きな二本の断層あり 奥間政則さんが講演/柴田天津雄・・・10ページ
- 《沖縄からの便り・その6》 沖縄高江で米軍ヘリ大破炎上/浦島悦子・・・11ページ
- インフォメーション・・・12ページ

※写真提供…北上田毅・生駒研二・阿部悦子・松本宣崇

「八方塞がり」に陥った沖縄防衛局

--- 辺野古新基地建設事業の現状と問題点 ---

北上田 毅（沖縄平和市民連絡会）



沖縄防衛局は、本年4月25日、大浦湾最奥部のK9護岸工に着手し、その後、辺野古側でも工事用仮設道路の造成を始めた。「埋立本体工事が始まった」「工事は着々と進んでいる」と強調するが、実際には防衛局は今、今後の工事の進め方について大きな難問に直面している。以下、今年も3回行った防衛省交渉や防衛局への公文書公開請求等で明らかになった事実をもとに、現在の工事の状況と問題点について説明しよう。

まず、K9護岸工は、延長100mの仮設工事だけで停止したままである。台風シーズンが終れば、いったん敷設したテトラポットや大量の石材を入れた袋材を全て撤去し、被覆ブロックや大型のテトラポットへの置き換え作業が必要になる。大変な手戻り作業だ。工事用仮設道路が出来ていないので資材の搬入が追いつかず、また、被覆ブロックも未だ全く製造されていないため、本来の工事には着手できなかったのだ。防衛局はそれを承知で、とにかく「大浦湾に石材の投下が始まった」と見せつけるためだけに、仮設工事に着手したのだ。県民を諦めさせるためであることは明らかだ。

その後、開始された辺野古側での工事用仮設道路工事も同様だ。まもなく、辺野古側でのN5護岸、K1護岸工が始まるかも知れないが、本来の工程を大幅に変更し、浅い辺野古側での簡単な工事を進める他ないのだ。

さらに重要な事実が明らかになった。大浦湾中

央部に予定されていた大型ケーソンの仮置場である海上ヤードが取止めとなったのだ。防衛局は「中止ではなく延期だ」と弁明するが、大型ケーソン工が大幅に設計変更となったことは間違いない。そのためには公有水面埋立法に基づく設計概要変更申請を県に提出し、知事の承認を受ける必要がある。翁長知事がそれを承認しない場合、工事は完全に頓挫してしまう。

大型ケーソンの大幅設計変更は、大浦湾の海底地盤の問題から必要になったものであろう。空洞や軟弱部がある琉球石灰岩層、厚い軟弱な沖積層、さらに地質学者は活断層の存在を指摘する。ケーソン下部に支持杭を打設するか、何らかの地盤改良工法が不可避になっているのだ。

海上ボーリング調査が延々と続いているのもそのためであろう。2014年から始まった調査は昨年で一旦終わったが、今年になってからも大型調査船・ポセイドンなどを使った調査が今も続いている。さらに防衛局は、本年10月から来年3月末までの予定で新たに2件の調査業務を発注した。海底地盤の調査に難航しているのだ。

他にも、美謝川の切替えも設計概要変更申請に知事の承認が必要である。74000群体ものサンゴ類の移植のための知事の特別採捕許可の目処も立たない。石材の洗浄問題、違法ダンプに対する追求も続いている。さらに、ゲート前の座り込みが続いており、ダンプが自由に入れず、当初、陸上搬送する予定だった石材を、海上からの搬送に変更せざるを得なくなっている。これも埋立承認の際の留意事項に基づき、知事の承認が必要である。防衛局は、こうした難問の処理を後回しにし、当面、工程を全面的に変更し、問題がない箇所でも簡単な工事を進めることにより、県民の諦めを誘う他ない状況に陥っているのだ。(10月21日記)

今回の米軍ヘリ墜落炎上事故で思うこと

沖縄県東村平良在住 田丸 正幸

衆議院選挙公示日翌日の10月11日、東村高江の民間の敷地内に墜落炎上した米軍ヘリ CH53 大型輸送ヘリ。高江の座り込みテントの真上も飛びその大きさは大型観光バス約2台に匹敵する。私に事故の一報が入ったのは墜落当日の18時前。地元テレビ局ディレクターからの電話でした。『高江でヘリが墜ちたみたいですか？那覇から向かってニュースに間に合いません！どんな映像でも画像でも構いませんからお願い出来ますか？』私は犬の散歩中で数分前からパトカーと消防車が尋常じゃ無い台数で走り去り続けて米軍の消防車が走り過ぎたので、最初は北部訓練場で山火事だと思いましたが、北部訓練場は実弾演習は出来無いので、何だろうと考えてる時の一報でした。

慌てて車に乗り込み現場が分かりませんでした。高江に向かいました。高江に向かう途中の宮城という地区辺りからプラスチックとゴムが焼けた様な匂いが微かに漂い始めました。



<https://ryukyushimpo.jp/news/entry-593375.html>

琉球新報WEB版 2017年10月14日 06:20

墜落現場に車両で入り、タイヤ痕が目立つ収穫前の牧草地。テントや簡易ベッド、簡易トイレなどの設置は、地主に事後報告だった=13日、東村高江

県道70号線を北上する事15分で現場に着き辺りは警察車両と米軍車両でごった返し、瞬時にただ事ではないと容易に判断できる有様でした。

すぐに車を止め現場を目指しましたが、既に唯一の入り口は県警と米軍にて規制線が張られ入れません！地理的な事は分っていたので左手の丘の上にある家からだ墜落現場が見えると思い急いで行き、一番高いコンクリートに登り先ず最初に短めの動画を撮り次に写真を撮り直ぐにテレビ局にメールし、今度はフェイスブックで炎上するヘリをライブ中継しました。

既に日は落ち真っ暗な中、目の前で燃え上がる炎。消火活動は始まっていましたが火柱は5メートルはあったと思います。

動画を配信しながら、危惧していた事がとうとう現実となり落胆よりも怒りが沸々と込み上げ我々の命と生活を政府は虫けらの様にしか考えてないんだと！

鎮火したのは20時前位でそのころにはマスコミも多く、高江や辺野古の仲間も来ていて皆で情報交換をしました。テレビの生放送に音声での出演やインターネットテレビニュース、新聞社などのくらい取材を受けたか分かりません。

我々は昨年7月22日権力により10年間守り座り込んだ場所を警察権力による暴力で奪われ6ヶ所のヘリパッドを造られてしまいました。

権力を持った者がなりふり構わず我々の血税を湯水の如く使い人殺しの為の施設を米軍の為に建設し反対する者はいらゆる法律で排除もしくは不当逮捕を繰り返した昨年の約5か月。年末に名護市安部でのオスプレイの墜落。不安要素が高まる中でのヘリパッド運用開始。沖縄の海兵隊は米軍の海兵隊の中でも群を抜く稼働頻度で酷使されています。

今回のCH53も整備が行き届かないままの使用が疑われています。只でさえ危険極まりないヘリが飛び回る沖縄の中で高江はヘリが訓練するヘリ

パッドが21か所あります。

今回墜落した場所から直に沖縄最大の福地ダムが有り、北部訓練所の中にも6か所、近隣のダム3か所と合わせて実に那覇までの水の82%をこの地区の水で賄っています。

もしこの墜落炎上した機体が福地ダムに落ちていけば間違いなく給水停止です。

高江の闘いは県民の水瓶を守る闘いでもあり生活権を守る闘いです。

今回の事故を受け強く思う事はヘリパッドが新設され愈々喉元に突き刺さった脅威が高江に来たと思ってきましたが、今は愈々目の前に突き付けられた脅威だと改めて実感する日々です。

今回の解散選挙で『国難解散』とぬけぬけと言う首相。沖縄はその国難のまさに縮図です。地方行政をないがしろにし、民意を無視し続け、国が決めたことだからと一方的に頭ごなしに押し付ける政府。

皆様が取り組まれておられます辺野古に土砂は送らせない運動とも連帯して、私は嫌なものは嫌と言いつけていきます。

辺野古に新基地が出来てしまうとオスプレイが100機配備されると言われています。

その100機は最優先で高江で飛行訓練し、今以上に日々危険と背中合わせの生活を強いられ、最悪は高江には住めなくなると思っています。

ましてや100機のオスプレイは沖縄だけではなく

く日本中で訓練飛行するのでしょうか？皆様の辺野古に基地は造らせないとのおいで上砂を搬入させまいと闘ってる場所も例外ではないでしょうか？

国が儲ける為アメリカと一緒に軍事に舵を切り出した今、志が同じ仲間が手を取り合い未来の子孫のために暴走政権を止めなければ取り返しのつかない事態が待っています。

出来る人が出来る事を出来る場所でやるしかないんです。

権力の中枢に居る者は我々を蟻に位しか思っていないかも知れませんが、私は『蟻でも象を倒せると』常に思い信じてます。

我々は非力ですが無力ではありません！我々が出来る事は諦めないことです。

活動で挫ける事もあります。でも一人じゃないのです、同じ思いの仲間が全国に沢山居ます。挫けた時は仲間を想い休んでまた立ち上がれば良いんです。

この地球の空と海は繋がっています。壊すのも守り続けられるのも我々人間です。

皆様の命と尊厳を掛けた闘いに私は敬意を表し非力ながら連帯しいつか、蟻が巨象を倒す日が来ることを信じて高江で闘い続けます。

(平成29年10月吉日)



「日傘カンパ」にご協力、ありがとうございました

辺野古土砂全協ニュース「つながる力」9号(17年7月刊)で、炎天下猛暑のなか連日続けられているキャンプシュワブゲート前の新基地建設反対行動に参加する市民が暑さを凌ぎ熱中症を防ぐために、ゲート前から呼びかけられた「日傘カンパ」を紹介しました。

辺野古土砂全協郵便振替口座に9月6日まで、全国から合計97,000円が寄せられました。

誌上を借りて、日傘カンパにご協力頂いた皆様には、厚くお礼申し上げます。

カンパは全額、所管する「ヘリ基地反対協議会」に届けました。予想以上の反響で、当初予算を大きく上回るカンパが各地から寄せられたと、現地より連絡頂きました。カンパは日傘購入にはもちろん、炎天下の中で工事に抗議して座り込み行動に参加する全国からの支援者の熱中症対策として飲料水等の購入に充てられたとの現地報告にご理解ご了承下さいますようお願い申し上げます。

(辺野古土砂全協事務局長 松本宣崇)

沖縄県土砂条例を活かすために 自治体の広域連携を

— 7/13~15 沖縄で3日連続の学習会 —

辺野古土砂全協顧問 湯浅 一郎

7月13日~15日、土砂全協は、自治体の広域連携を通じて沖縄県土砂条例を活かそうとの方針を具体化させるべく、阿部、八記、湯浅の3人で沖縄を訪れ、3日連続の学習会を開催した。

コミ約30人が参加し、私が、「生物多様性から見た辺野古土砂搬出問題—懸念される環境汚染と外来生物持ち込み」と題して約1時間講演した。

生物多様性豊かな辺野古の埋立ては、「生物多

様性国家戦略」及び「おきなわ戦略」という法に基づいた環境政策に反する行為である。土砂問題も、外来種の沖縄本島への持ち込み、及び持ち出し地の海や山の破壊の2つの側面が、生物多様性国家戦略に反しており、辺野古埋め立てと全く同じ構図が当てはまる。今、搬出6県では、各県の生物多様性地域戦略を推進する立場から、土砂搬出に伴う外来種の持ち出しを食い止めるため、沖縄県土砂条例の推進に協力してほしいとの要請行動を進めている。これまでに長崎県は、「沖縄県から協力要請があれば、協力することになると回答した」と話した。こうした提起に、県議からは「このような各県での取り組みは大変有難く、歓迎する」との支持する発言があった。

他にも土砂条例担当の自然保護課職員との面談、県庁記者クラブでの記者会見等、大きな副産物もあった。14日、豊見城、15日、名護での市民向け学習会には、それぞれ200名、100名と多くの市民が集まり、会場は熱気にあふれていた。辺野古現地の具体的な状況を北上田さんが話、私と2人で2回連続の講演となった。準備に奔走した浦島さんから、沖縄にとってもいい刺激になり、新しい風が吹き込んだような気がすると思感をいただきホッとしている。

土砂搬出側と連携を

辺野古の環境で勉強会



湯浅一郎氏

環境保全の観点から、名護市辺野古の新基地建設に反対する「辺野古埋め立て土砂搬出反対全国連絡協議会」は13日、那覇市の県議会で県議を対象に勉強会を開いた。13人が参加した。講師を務めた同協議会の湯浅一郎顧問は、米軍普天間飛行場移設に伴う新基地建

設の埋め立て工事は「生物多様性国家戦略に反し、沖縄固有の生態系を乱す行為でもある」と指摘した。(1面に関連)

県の「埋立用材に係る外来生物の侵入防止条例」(土砂条例)の有効活用と、土砂を搬出する側の自治体との広域的な連携によるチェック体制強化の必要性を訴えた。

湯浅さんは土砂条例の適用第1号となった那覇空港第2滑走路増設事業で、奄

美大島の採石場で特定外来生物指定種のハイイログケグモが見つかった例を挙げ、条例の実効性を疑問視した。前例の教訓から外来生物が発見された場合は県による立ち入り調査を徹底し、駆除作業後のチェック体制を整備すべきとの見解を示した。

湯浅さんは「外来生物の脅威を議員に理解してもらうことで、土砂条例の実効性が高まる。他府県の自治体と連携した協議会を設置できれば、地域戦略の推進にもつながる」と期待を寄せた。

阿部悦子共同代表も、生物多様性国家戦略にのっとり環境保全に努めるべき政府が「自ら環境破壊行為を推し進める」矛盾を指摘し

た上で、「基地建設に伴う環境破壊行為は、土砂を採取する瀬戸内海周辺の各地にも及んでいる」と訴えた。

辺野古土砂全協は現在、瀬戸内海を中心に活動する18団体が加盟している。

2017. 7. 14 琉球新報



主な目的は、条例を作った県議の方々と交流、意見交換し、土砂全協の思いや方針を伝えることである。県議向け学習会には、県議13人とマス

9月の沖縄訪問記

辺野古土砂全協共同代表 阿部 悦子

●お盆「ウンケイ・ワークイ」を挟んだ 一週間の滞在で・・・

私は、9月3日～9日まで沖縄に滞在した。3日、那覇空港に到着直後「ヤンバルの森と辺野古の海を守ろう 9・3シンポジウムと海勢頭豊コンサート」に参加し、翌日と翌々日には映画「米軍が最も恐れた男、その名はカメジロー」を2度観た。



7日は写真展「石川真生大琉球写真絵巻」を、真生さんのお話を聞きながら鑑賞することができた。これらの企画はどれも、沖縄戦から現在に続く沖縄の苦悩を共有し、学習するものであり、沖縄の人々が日々絶えず学び合う姿が、現在の「オール沖縄」を支えているのだと実感した。

この期間は沖縄のお盆「ウンケイ・ワークイ」の時期でウチナンチューが最も大事に過ごす時期でもあったが、どの集会、企画も多くの人が集まり、盛況であったが、「お盆でなければもっと人が集まる」と聞き驚いた。

6日には沖縄に通い始めて友人になった嘉手納基地直近で育った女性に招かれて、伝統ある「千原（せんばる）エイサー」を見せて頂いた。

嘉手納町の面積の82%が米軍基地であり、友人のお里もこの米軍基地に接続されているが、その千原に住んでいた人々がバラバラにされた今も、先祖供養の念仏踊りであるエイサーを引き継いでいる。また、嘉手納町に住むと、世界中の戦

争が、飛び立つ戦闘機の数の多さや騒音などでもろに分かるような過酷さを知らされた。



いつも、戦争に巻き込まれ「死」の恐怖と隣り合わせの沖縄の人々の現実そのものがあった。7日からの2泊は軍事基地化の進む石垣島を訪れた。なお、「お盆」の時期は辺野古工事が中止されて、今回は座り込みに参加できなかった。

●名護で来年の総会の概要が決まる

前後するが、4日には全国土砂協の仲間である「本部町島ぐるみ会議」と「島ぐるみ会議名護」の人々が、名護に集まってくださり、食事をしながら来年の全協の沖縄総会について協議した。来年は名護市長と沖縄県知事の選挙の年であり、事務局は「本部島ぐるみ会議」と南部の「島ぐるみ」にお願いし、名護の浦島さんたちが心強いサポートに回って下さることになった。



その後の協議で日程は5月末の土曜・日曜で、宿泊是那覇市か、普天間基地のある宜野湾市でという案も出ている。楽しく美味しい時間のなかで

来年の総会が決まったこと、親戚づきあいのように心を通わせた一夜に感謝した。

●軍事要塞化が進む石垣島で・・・

土砂協の仲間がいる奄美大島では、土砂搬出と同時にミサイル基地化に反対の声を挙げているが、国は「自衛隊の南西諸島等配備・増強計画」によって、沖縄島と南西諸島、宮古島・石垣島・与那国島の軍事化を強引に進めている。



高江も辺野古も伊江島も、その計画の中にあることを知らなければならない。それは、アメリカの対中国戦略である「エアシーバトル構想」によって位置付けられており、沖縄・南西諸島を「防波堤」にすることでアメリカは自国を戦場にせず、自国兵士の犠牲を少なくし、日本の自衛隊を使い中国を制御しようとしている。さらに日本列島そのものがアメリカの防波堤ともいえるのだ。そしてこの構想に防衛省は積極的に協力しようとしている。この現実を日本のどれだけの人が認識しているのか疑問である。

その中の石垣島を訪問して、ミサイル基地に反対する人々のお話を聞いた。その中のお一人は、



84歳の潮平正道さん（下写真）。

中学一年で鉄血勤皇隊に入って訓練などを受けたが、やがて住民を戦闘の足手

まといと考える軍によって一家でマラリア有病地と恐れられ誰も住む人のない奥地に「強制避難」させられた経験をもつ。その「避難」は八重山地域の島々に住む31701人に及び、マラリア罹患患者数は16701人、死亡者数は3647人にも上ったという。軍命によるこのような悲劇に対して戦後日本は人々に補償さえしていないという。

今回の衆院選挙で、沖縄県では唯一4区（八重山地区含む）でのみ「オール沖縄」の候補が自民党候補に惜敗したのだが、この結果を私は危機感をもって受け止めた。この国は、また同じ過ちを繰り返すのか！

●私たち「辺野古土砂全協」の活動は、西日本の地から辺野古に土砂を搬出しないことが原点でありながら、沖縄の人々との交流の中で、この国の「安全保障と呼ばれる軍事・国防」の在り方にたどりつかざるを得ない。

自然環境も人々も、芸能文化や芸術もおおらかで秀でた沖縄・八重山の人々と共に生きる道を探っていきたいと思う。

リーフレット（A-4版・二つ折り 本体・送料とも無料です）

「どの故郷にも**戦争に使う土砂**は一粒もない」

出来ました！

辺野古土砂全協事務局長 松本宣崇

より分かり易く、辺野古埋立て用土砂の大半が本土側から採取する計画であることを訴えていくため、同封のリーフレット「どの故郷にも戦争に使う土砂は一粒もない」を5万枚、作成しました。

沖縄県民の大多数の辺野古新基地建設反対の意思に連帯し、無謀極まる土砂採取計画を訴え、新基地建設を止めるため、また、土砂採取計画撤回を求める署名活動にぜひご利用をお願いいたします。

ご利用して頂ける皆様には、辺野古土砂事務局（Tel・fax086-243-2927）にご連絡下さい。

ただし、勝手なお願いですが、部数は100部単位でお願いします。

辺野古埋立て用土砂採取問題 各県で要請 採石許可延長を不許可に！ 外来種防止対策の徹底を！

辺野古土砂全協に参加する各地団体により、採取予定県に対し、要請交渉や県議会での質問、あるいは陳情などの活動が相次いで進められています。各地の活動を報告します。

香川県庁と要請交渉

辺野古土砂搬出反対全協事務局長 松本 宣崇



故郷の土で辺野古に基地をつくらせない香川連絡会は7月24日、小豆島環境と健康を考える会、香川平和労組会議、小豆島革新懇とともに、高田良徳、梶正治両県議の仲介で香川県と交渉した。

県側は環境森林部緑保全課、土木部土木管理課が対応した。採石業許可を所管は土木管理課。

計画では、香川県小豆島も辺野古埋立て用土砂の搬出地の一つ。これに対し、「生物多様性国家戦略」、及び香川県地域戦略「香川県いきものにぎわい作戦」を推進する観点から、2つの問題があるとして、どう対処していくのかを質した。

1. 特定外来生物持ち出しに伴う沖縄本島の生態系かく乱の懸念。

2. 採石場が、環境省が公表した「生物多様性の観点から重要度の高い海域」（以下、「重要海域」）に面する、ないし隣接していることによる生物多様性への悪影響への懸念。

しかし、香川県は、「香川県いきものにぎわい作戦」は生物多様性戦略でなく、特定外来種防止対策には今年度中に侵略的外来種リストを作成、今後啓発を進め、業者には講習を行うとした。また、沖縄県からの協力要請があったときは協力連携するかの問いに、要請あれば検討するとの回答にとどまった。

既に5月9日、小豆島島民が、採石業の野放図な延長、採石場内の野積みされた大量の土砂、土砂の海水洗浄など、地域住民が暮らしの中で不安を募らせていると訴えた。その際、県は土砂の海水洗浄を知らず、今交渉で「業者に海水洗浄をやめるよう指導、その後されていない」と回答した。

現時点では、香川県の回答はゼロ回答としか言いようがない。重ねて交渉の場を求めていきたい。

「辺野古新基地建設に関わる県内土砂搬出に関する要請書」への 熊本県の回答

辺野古土砂搬出反対熊本県連絡協議会事務局長 生駒 研二

「辺野古新基地建設に関わる県内土砂搬出に関する要請書」に対する回答が、9月15日付けの蒲島郁夫熊本県知事名で届いた。

1) 特定外来生物持ち出しに伴う沖縄本島の生態系かく乱の懸念の回答

外来生物は国が所管しており、県は国からの指

導や協力依頼により対応することとなっています。沖縄県からの要請が出ていない現段階では、対応等をお示しすることはできませんが、沖縄県からの要請があれば、国と協議し対応を検討することとしたいと思います。

2) 採石場が、環境省が抽出した「生物多様性の

観点から重要度の高い海域」に面していることによる生物多様性への悪影響の懸念の回答

県では、生物多様性の保全とその恵みの持続的な享受に関する目標を示した「生物多様性くまもと戦略」を策定し、県下における生物多様性保全の取り組みが効果的に行われるよう、市町村や事業所等と連携して取り組んでいます。

県内には「重要度の高い海域」が3海域ありますが、それぞれの海域の範囲も広く、その中で様々な人間活動や事業活動が行われています。この国が抽出した「重要度の高い海域」は、保全対象とすべき場所を直接示すものではなく、現段階で海域内での人間活動の制限はないとされていますが、今後国の動きを注視していく必要があると考えて

います。



2017. 8. 3にも熊本県と再交渉

国依存の姿勢を県独自の姿勢に変えさせなければ、天草を取り囲む3つの海（有明海・不知火海・天草灘）は護れないと思いました。沖縄県からの要請が必要ないよう、自らの力で土砂搬出を止めさせたいです。

山口 — 辺野古 私たちの現場

「辺野古に土砂を送らせない！」山口のこえ代表 大谷 正穂

思わずガッツポーズを（こころの中で）した。10月2日の山口県議会環境福祉委員会で、特定外来種対策で沖縄県から協力要請があった場合の対応を質問された県環境政策課長は、「具体的な要請がない」としながらも議員の重ねての質問に「一般的には出来ること出来ないことはあるが、出来ることには真摯に対応する」考えを示しました。また、事業所内で特定外来種が確認された場合、「現場に行き行って駆除を指導する」などと答えました。これはこれまでの「具体的要請がないので答えられない」としてきた答弁から一歩踏み込んだ発言です。

私たちは「辺野古土砂搬出予定地」というカードを持っています。全国でも恵まれた位置にいるといえます。このカードを有効に使って「土砂をとめる！」のが「山口のこえ」の発足からのスタンスです。ようやく成果が少しみえてきたなというのが今の気持ちです。

来年1月に名護市長選があります。地元の人たちはゲート前に選挙戦にと大変なことになります。「県外者がカワリバンコにゲート前に座り込

みダンプの進入をとめ、地元の人たちが選挙に集中できたら」と話しています。今からなら飛行機のチケットも安いし、皆さんやりませんか。

八重洋一郎 詩集

日毒

17年5月3日 コールサック社：発行
本体価格 1,500円

1942年、石垣市に生まれ、学生時代を東京で過ごし、今また石垣市に暮す詩人・八重氏の叙事詩集の最新刊。詩の力で、石垣島から沖縄を、そして世界を俯瞰する。阿部共同代表より丹紅色カバーの詩集「日毒」をもらった。この言葉を恥ずかしながら初めて知った。八重氏は語る。「たった一言で全てを表象する言葉」「明治の琉球処分前後から確実にひそかにひそかにささやかれていた」言葉。「まさしくこれこそ今の日本の闇黒を丸ごと表象する一語」だと。この一語が、沖縄をめぐる大和やアメリカの姿勢を表している。ぜひ手にしてもらいたい。

(辺野古土砂事務局長 松本宣崇)

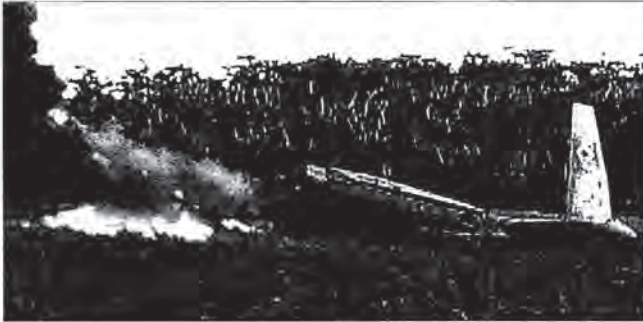


沖縄からの便り
《連載 No.6》
いちやりば
ちよーでー

沖縄高江で米軍ヘリ炎上・大破

北部訓練場の全面返還を！

ヘリ基地いらぬ二見以北十区の会 浦島悦子



<https://ryukyushimpo.jp/photo/entry-593075.html>
＜黒煙＞牧草地に不時着し、炎上する米軍のCH53ヘリ＝11日午後（西銘晃さん提供）

写真は2017年10月13日 14:23 琉球新報WEB版に配信されたものです。（編集部）

「米軍ヘリが炎上・大破！」の第一報を聞いたのは、突然の衆議院選が公示された翌日＝10月11日の夕刻、沖縄第3選挙区の「オール沖縄」候補・玉城デニーさんの女性集会参加のため、高速道路を名護から沖縄市へと走っていたチャーターバスの中だった。折りしも、高速道路沿いに広がる米海兵隊中部訓練場では実弾演習による山火事の黒煙が上がり、米軍ヘリが消火バケツをぶら下げて飛んでいた。北部と中部で同時進行の事態に呆然となり、これが沖縄の「現実」だと改めて突きつけられた。

東村高江の民間牧草地に不時着したヘリが真っ赤な炎と黒煙を上げて燃える映像は、瞬く間に全島に広がり、昨年12月の名護市安部海岸へのオスプレイ墜落の恐怖も覚めやらない県民を震撼させた。玉城氏は集会での挨拶のあと高江へと急行したが、現場では事故後すぐに米軍が規制線を敷き、県警がそれを守るという10ヶ月前と同じ状況が作り出され、駆けつけた東村長も翁長知事も立ち入りを拒否された。

炎上した大型輸送ヘリCH53Eは、2004年8月に沖縄国際大学に墜落したCH53Dの後継機で、回転

翼にストロンチウム90が使われており、原型をとどめないほどの炎上によってベータ線が相当量放出された可能性が高い。しかし米軍は沖縄県の環境調査を拒否し、事故機の残骸とともに現場の表土を牧草ごと大量に持ち去り、証拠隠滅を行った。

事故を最初に目撃した牧草地の地主・西銘晃さんは内部被爆の懸念に加え、刈り入れ寸前の牧草や近くで飼っている豚の出荷ができなくなり、30年間丹精こめて作り上げた土まで奪われ、怒りを乗り越して茫然自失状態だ。15日に北部訓練場メインゲート前で開催された緊急抗議集会には、地元・高江や東村をはじめ全県から200人が参加。口々に「北部訓練場の全面返還」「全基地撤去」を訴えたが、米軍は原因究明もしないまま、早くも1週間後の18日から同型ヘリの飛行を強行再開した。

やりたい放題の米軍と、それにももの言えない日本政府に対する県民の怒りが募る中で行われた今回の衆議院選で、「辺野古新基地建設阻止」を訴える沖縄全4区の「オール沖縄」候補者たちは健闘し、1区・赤嶺政賢、2区・照屋寛徳、3区・玉城デニーの各氏が大幅で勝利。基地を押し付ける日本政府への「NO!」を県民は改めて、しっかりと示した。

全国的には自民党が圧勝し、辺野古の工事推進を打ち出しているが、私たちは現場のたたかいとともに、今回の勝利を来年2月の名護市長選、11月の沖縄県知事選の勝利へとつなぎ、理不尽な基地押し付けに終止符を打つ決意だ。同時に、憲法を改悪し、戦争国家へとひた走る自公政権に、沖縄から歯止めをかけていきたい。（17.10.24記）

辺野古土砂全協第5回総会



2018年5月26日(土)～27日(日) 沖縄県で開催が決定!

名護と本部、南部の「島ぐるみ会議」中心に総会開催をお引受け下さいました。今から予定に入れておいて下さい。・・・以下は浦島さんのメールより・・・「事務局は、『本部町島ぐるみ会議』の阿波根美奈子さんが引き受けて下さり、総会の場所は、沖縄島中部あたりが候補にあがっています。総会に伴う学習会・交流会やフィールドワークなどについても、ご希望やご意見を頂けると有難いです。実行委員会では、土砂全協と沖縄県議会との連携のためにも、県議さんに参加してもらいたいと思っています」

11.8～9 福岡県への要請行動

■ 事前学習会

11月8日(水) 18:30～

北九州生涯学習総合センター・1F 情報学習室

講師：湯浅一郎さん(辺野古土砂全協顧問)

要請内容の確認と学習を行います。

■ 福岡県要請交渉

11月9日(木) 10:00～県環境部自然環境課

当日は09:30、福岡県庁に必着・集合

連絡先 「辺野古埋立て土砂搬出反対」北九州

連絡協議会 (八記 080-1730-8895)

● (報告) 辺野古で抗議の声をあげる土木技術者 奥間正則さん、連続8回の学習会 (10p参照)



奥間さんは10月20日～27日まで滞在され、京都、大阪、三重、名古屋、山口、愛媛と、計8回の講演をして下さいました。高江・辺野古の工事のずさんさ、最近見つかった大浦湾海底の活断層や琉球石灰岩のもろさなど土木技術者としての知見と誠実さで分かりやすく話されました。またご両親が戦後にハンセン病を発症しその後の人生を苦しんだことを亡くなってから知ることになり、4年前に同じ「国策」である基地問題反対運動への参加を決めたと心の軌跡も語り、各地で大きな反響がありました。(阿部悦子)

■ 編集後記

◎ 今回の衆院選挙、沖縄から見るとその本質が見えるのではないかと。「保守」「リベラル」などと分類されているが、この国の「安全保障政策・防衛」につて、アメリカとの関係をどうするのかが問われたのだ。ヤマトの大方の政治家は、躍進した「立憲民主党」も含めて依然として沖縄をこの国の軍事要塞化することに異議を唱えていない。私たちは今後どのように現状を変えていけるのか、模索したいと思う。そのことが辺野古大浦湾を守り八重山の島々を守ることになるのではないかとと思う。(阿部)

◎ 辺野古埋立て用土砂搬出計画に、採取予定各県で行政の姿勢を質す行動が進められていることは喜ばしい。互いにそれぞれの交渉内容を共有しつつ、さらに実りを挙げていきたい。

最近、「リニア新幹線が不可能な7つの理由」を読んだ。東京-名古屋間の86%がトンネルという。その残土の量たるや5700万m³ その80%の処分先が決まっていない。ふと、これを辺野古埋立て用に利用?ここまでくれば、もはやブラックユーモアか? (松本)

《辺野古土砂搬出反対全国協ニュース》

発行責任者…全国連絡協議会共同代表 大津幸夫(自然と文化を守る奄美会議)

阿部悦子(環瀬戸内海会議) hibi_letsuko@yahoo.co.jp

編集…松本 宣崇(環瀬戸内海会議) nmatchan@ms8.megaegg.ne.jp

八記久美子(門司の環境を考える会) kanpanerura8k@mail.goo.ne.jp

連絡先…愛媛県今治市別宮町9-7-4 阿部悦子 Tel.090-3783-8332

辺野古埋立て用土砂採取計画の撤回を求める署名にご協力を・・「一粒も故郷の土を戦争に使わせない」

(2017.7.6)

私たち辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会は、西日本各地から辺野古新基地建設のための埋め立て用土砂として、既存採石業者から購入・調達するとされる計画の中止を求めて活動する団体・個人が2015年5月31日、鹿児島県奄美市に集い、連携・協力するために、設立されました。

わずか半年ほどの署名活動で52,429筆を集め、15年10月15日、安倍首相にあて第一次署名提出を行ない、16年11月1日に第二次署名41,470筆を提出、さらに署名活動を進めています。

私たちは、以下の理由により辺野古埋立て用土砂採取計画に反対して署名を進めています。

「**辺野古埋立て用土砂採取計画の撤回を求める署名**」にご理解・ご協力をお願いします。

- 1 大量の土砂採取は、持ち出される側にとって地域の山・川・海など環境や景観の破壊は避けられません。しかも既存採石場の大半が、国立公園の隣接地、あるいは世界遺産（自然遺産）登録を準備している地域であり、本来守られるべき自然環境や景観を破壊することは明らかです。
- 2 大量の土砂搬入は、辺野古と大浦湾の海を回復不可能なまでに破壊することであり、外来種混入の恐れもあり、それに加担するべきではありません。
- 3 辺野古新基地建設は、単なる普天間基地の代替施設ではなく、海空両用の最先端の基地機能を有する軍事基地への増強です。沖縄の負担軽減にはなりえない計画です。
- 4 圧倒的な沖縄県民の声を無視した埋立て強行は断じて許せません。そして土砂を搬出される側に住む私たちは、**<一粒たりとも故郷の土を戦争に使わせない！>**と、固く心に刻んでいます。



辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会

共同代表 大津幸夫（自然と文化を守る奄美会議） 阿部悦子（環瀬戸内海会議）

連絡先 〒700-0973 岡山市北区下中野 318-114 松本方 Tel・Fax 086-243-2927

《参加団体》

奄美市住用町市環境対策委員会（鹿児島） 海の生き物を守る会（京都） 沖縄・辺野古に新基地をつくらせない広島実行委員会（広島） 本部（もとぶ）島ぐるみ会議（沖縄） 環瀬戸内海会議（岡山） 五島列島・自然と文化の会（長崎） 自然と文化を守る奄美会議（鹿児島） 島ぐるみ会議名護（沖縄） 小豆島環境と健康を考える会（香川） 手広海岸を守る会（鹿児島） 播磨灘を守る会（兵庫） 故郷の土で辺野古に基地をつくらせない香川県連絡会（香川） 辺野古埋立て土砂搬出反対北九州連絡協議会（福岡） 辺野古埋立て土砂搬出反対熊本県連絡協議会（熊本） 辺野古に土砂を送らせない！山口のこえ（山口） 辺野古のケーソンをつくらせない三重県民の会（三重） 南大隅を愛する会（鹿児島） 門司の環境を考える会（福岡）

(五十音順 計18団体)

(裏面が署名用紙です)

南西諸島や瀬戸内海など西日本各地の自然を破壊し辺野古のサンゴ礁の海を破壊する埋立ての中止を！

西日本各地からの辺野古埋立て用の土砂採取計画の撤回を求める署名

内閣総理大臣 殿
衆議院議長 殿
参議院議長 殿

名前 住所

- ◆ 防衛省は九州の奄美群島、佐多岬、天草、御所浦島、五島・枕島、門司と、瀬戸内海の小豆島、防府、黒髪島の西日本各地から、1,700 万㎡という凄まじい量の土砂を、運び去ろうとしています。
 - ◆ 土砂は沖縄・辺野古沖に耐用 200 年といわれる米軍攻撃型基地を新設するためで、その埋立てに投じられます。
 - ◆ ひとたびサンゴ礁の海が破壊されれば、沖縄はその豊かな海を喪失、ジュゴンが泳ぐ貴重な環境をも失うことになります。
 - ◆ 土砂を持ち去られる西日本各地でも、自然破壊がさらに加速し、公害や住民間の利害対立さえ生じています。また、その生物多様性から世界的にも注目されている南西諸島や瀬戸内海等の自然を再び危機に晒すこととなります。
 - ◆ 加えて、土砂に紛れ込む恐れのある、外来種持込みによる環境影響調査も放置され、新たな問題が生じようとしています。
 - ◆ 何より辺野古基地新設は沖縄の基地植民地化を固定化し、平和を望む沖縄県民の意思を踏みにじるものです。加えて西日本採石地の住民にも、有無を言わず基地への間接加担を強いようとしています。
- 私たちは辺野古基地新設の即時中止と採石計画の撤回を強く求めます。

取扱団体 :

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会 共同代表 大津幸夫 阿部悦子 連絡先 〒700-0973 岡山市北区下中野 318-114 松本方

《参加団体》 奄美市住用町市環境対策委員会(鹿児島) 海の生き物を守る会(京都) 沖縄・辺野古に新基地をつくらせない広島実行委員会(広島) 本部島ぐるみ会議(沖縄) 環瀬戸内海会議(岡山) 五島列島・自然と文化の会(長崎) 自然と文化を守る奄美会議(鹿児島) 島ぐるみ会議名護(沖縄) 小豆島環境と健康を考える会(香川) 手広海岸を守る会(鹿児島) 插磨灘を守る会(兵庫) 故郷の上で辺野古に基地をつくらせない香川県連絡会(香川) 辺野古埋立て土砂搬出反対北九州連絡協議会(福岡) 辺野古埋立て土砂搬出反対熊本県連絡協議会(熊本) 辺野古に上砂を送らせない！山口のこえ(山口) 辺野古のケーソンをつくらせない三重県民の会(三重) 南大隅を愛する会(鹿児島) 門司の環境を考える会(福岡) (五十音順 計 18 団体)

「ジュゴンの日」を定め、ジュゴンを沖縄県の「県獣」に！ 署名にご協力ください

全国の都道府県には象徴的な樹木や花、生きものを選び、親しみ大切にする制度があります。著名なものでは新潟県のトキ、富山県のライチョウなどがあります。このような制度は、日本列島の生物の多様性を示す例といえます。

県民にはよく知られているように、沖縄県では、グルクン（たかさご）が「県魚」、ノグチゲラが「県鳥」、デイゴの花が「県花」、リュウキュウマツが「県木」として指定されています。しかし「県獣」は不在です。その「県獣」として、ジュゴンを指定したいというのが私たちの願いです。

沖縄県は現在、日本で唯一のジュゴンの生息地であり、世界の分布の北限でもあります。沖縄島北部の沿岸に少なくとも3頭のジュゴンが棲んでいることは、報道等でも知られているとおりです。また、継続的な市民調査によって、特に辺野古・大浦湾周辺海域が沖縄のジュゴンにとって重要な餌場であることも明らかになっています。

ジュゴンは国の天然記念物に指定されていますが、絶滅の危険と保全の緊急性にもかかわらず、政府による保護策は皆無に近いのが現状です。それどころか、いま、日米政府による辺野古新基地建設のために、この希少な『北限のジュゴン』の餌場が埋め立てられようとしています。日本政府は法を軽視し、また科学的知見も無視してジュゴンが回遊する海域での工事を強行しています。このままジュゴンの生息地の攪乱が続けば、わずかな数で個体群を維持している沖縄ジュゴンの絶滅は必至と思われるます。

私たちはそのような事態を望みません。ジュゴンは県民が将来の世代に伝えるべき大切な財産であり、沖縄の人と自然の共生の象徴です。と同時に、ジュゴンは現代において平和の象徴ともなりつつあります。このジュゴンを「県獣」として指定し、県の保護条例を制定するとともに、毎年10月5日を「ジュゴンの日」と定めるよう要望します。

よびかけ人：エレン・ハインズ(サンフランシスコ州立大学教授・北米海生哺乳類研究者)、加藤 登紀子(ミュージシャン)、古謝 美佐子(ミュージシャン)、田島 征三(絵本作家)、盛口 満(沖縄大学人文学部子ども文化学科教授、『ジュゴンの唄』2003 著者)、葉 祥明(絵本作家)、横井 謙典(水中カメラマン)

お名前	ご住所

※ご記入いただいた個人情報はい今回の噴願以外の目的には使用しません。

※ご家族単位で署名していただく場合に、同じ住所であっても「同上」「#」など省略しないで下さい。

問い合わせ・連絡先：北限のジュゴン調査チーム・ザン（代表・鈴木雅子）

住 所：〒905-0011 沖縄県名護市宮里4-12-8

Eメール：n-hokugen.19@kjd.biglobe.ne.jp

電話・FAX：0980-43-7027 携帯：090-8032-2564

<趣意書>は裏面参照

<ジュゴンの県獣指定への趣意書>

ジュゴンは暖かい海に棲息する海牛目に属するほ乳類で、太平洋とインド洋にかけてのかなり広い範囲に生息していますが、生息数が減少しているため国際保護動物に指定されています。そのうち、沖縄島近海に生息しているジュゴンは、分布の北限にあたる個体群です。

古くから沖縄の人とジュゴンは深い関わりがありました。多くの遺跡からジュゴンの骨が出ており、かつては重要な食料源であったことがわかります。琉球王府時代になると、ジュゴンの捕獲は王府の管理下に置かれるようになり、八重山では新城島民によってジュゴンが捕獲され、王府に献上されました。このような歴史があることから、新城島の豊年祭においては、ジュゴン猟の様子を歌い込んだ唄による踊りが披露されます。

ジュゴンは、満潮時にはリーフ内に生える海草を餌としていますが、干潮時にはリーフのクチ(口)と呼ばれる部分を通して外洋へ移動します。このようにリーフと外洋を行き来することから、ジュゴンは神の使いや、津波を予知する不思議な生き物としても認知されてきました。このことから、各地の折り唄や昔話にもジュゴンは登場しています。沖縄の多くの集落は、海を前にし、山や野を背にしています。人々は陸域で生産される作物や、野山の動植物の幸とともに、目の前の海の幸によっても生かされてきました。また、海の彼方にはニライカナイと呼ばれる、神や祖先たちのいる場所があるという信仰も今に続いています。このように見ていくと、ジュゴンは、沖縄の人と自然のつながりの象徴と言えるでしょう。

一方、明治政府によって琉球王府が廃された後、ジュゴンの捕獲はいわゆる無政府状態に陥りました。このため、八重山・宮古海域に生息していたジュゴンは大正時代に捕獲の記録が途絶え、絶滅したと考えられています。沖縄島近海のジュゴンも、沖縄戦直後の食糧難の中で捕獲され食料とされただけでなく、その後も人間活動による生息環境の悪化にさらされています。そうした中、沖縄島北部の沿岸になお生き続けるジュゴンは奇跡であり、希望とも言えます。

沖縄近海に生息している「北限のジュゴン」への国際的な関心は高く、世界中からジュゴンの保護と生息環境の保全が要望されています。また、米国におけるジュゴン訴訟(2003年提訴)においても、NHPA(国家歴史保全法)に基づき、ジュゴンは当事国において保護されるべき対象であると認められています。しかし、日本政府によるジュゴンの保護策は天然記念物指定にとどまっており、十分とは言えません。現在、奄美・沖縄諸島の「世界自然遺産」登録に向けての機運が高まっています。また、県は生物多様性おきなわ戦略も立ち上げています。であるならば、沖縄の人と自然のつながりの象徴であるジュゴンの重要性について、県民が認識を新たにするとともに、県が主体となってジュゴンの保全についてよりいっそうの努力を推し進める必要があると考えます。